

|   |   |      |               |      |       |
|---|---|------|---------------|------|-------|
| 科目名   | 開講時期  | 開講学年 | 必修/選択         | 単位   | 時間    |
| 総合臨床実習 I  | 後期  | 3 学年 | 必修            | 8 単位 | 360 h |
| 担当教員名   | メールアドレス   |      | オフィスアワー       |      |       |
| 科目主担当： <u>吉松竜貴</u><br>実習委員：遠藤悠介，作山晃裕<br>補助：高杉潤，宇都宮雅博，大竹祐子，<br>河辺信秀，平野康之，河江敏広，小泉圭<br>介，中村睦美，鬼塚勝哉，杉山聡   | tatsuki.yoshimatsu@tohto.ac.jp  |      | メール、teams で随時 |      |       |
| 授業の概要   |   |      |               |      |       |
| 9 月第 4 週～11 第 3 週までの 8 週間、医療機関に出向いて、現職の理学療法士（臨床実習指導者）に付き従い、実際の患者に対する診療（リハビリテーション）の一部に参加しながら、医療職者にふさわしい態度や礼節、実際の患者に対する理学療法評価における技術や臨床的思考などについて体験を通して学ぶ。なお、実習オリエンテーション、OSCE および実習終了後の実習報告も本科目に含まれる。 |   |      |               |      |       |
| キーワード   | 到達目標  |      |               |      |       |
| 診療参加型臨床実習<br>理学療法評価<br>医療面接・医学情報の収集と解釈<br>リスク管理（基本）<br>検査・測定項目の列挙<br>収集した情報の記録と整理<br>収集した情報の統合と解釈   | ① 医療従事者としてふさわしい礼節、態度、コミュニケーション能力を獲得する（不備の指摘を受け入れ即座に改善できる）。<br>② 学内で学習した人体に関する知識やリハビリテーション対象疾患の病態に関する知識に関する理解を深める。<br>③ <b>臨床実習指導者の監視のもとであれば、学内で学習した理学療法評価の技術項目を障害者に対して独力で実施できる。</b><br>④ <b>現職者が理学療法を行う際の考え（臨床的思考）のトレースを繰り返し、それを応用して、自分なりの推論を表出できる。</b> |      |               |      |       |
| 学習内容  |   |      |               |      |       |
| 学内で学習した理学療法評価に関する技術の研鑽のみならず、認知スキルを含む理学療法評価を実践するための「技能」を高めるべく、臨床実習指導者の指導のもと、実際の障害者に対して理学療法評価の全般を実践し、臨床実習指導者の誘導があれば自身の意見を表出することができることを目指す。  |   |      |               |      |       |
| 受講要件  |   |      |               |      |       |
| 2 年次終了までに開講される必修の専門科目および専門基礎科目の全ての単位を修得していること。  |   |      |               |      |       |
| 評価  |   |      |               |      |       |
| レポート  | その他   |      |               | 合計   |       |
| 0%  | 実習への参加状況とその内容 70%<br>実習開始前 OSCE 30%   |      |               | 100% |       |
| 教員からのメッセージ  |   |      |               |      |       |
| 理学療法評価に関わる授業はもとより、人体に関する授業やリハビリテーション対象疾患の病態に関する授業など、これまでに学んだ全ての知識を実際の臨床場面でのどのように生かすのかを学ぶ重要な機会となります。しっかりと事前の準備を行って臨床実習に臨んでください。  |   |      |               |      |       |

